

次世代交通ビジョンおきなわ

【第3回 有識者会議】

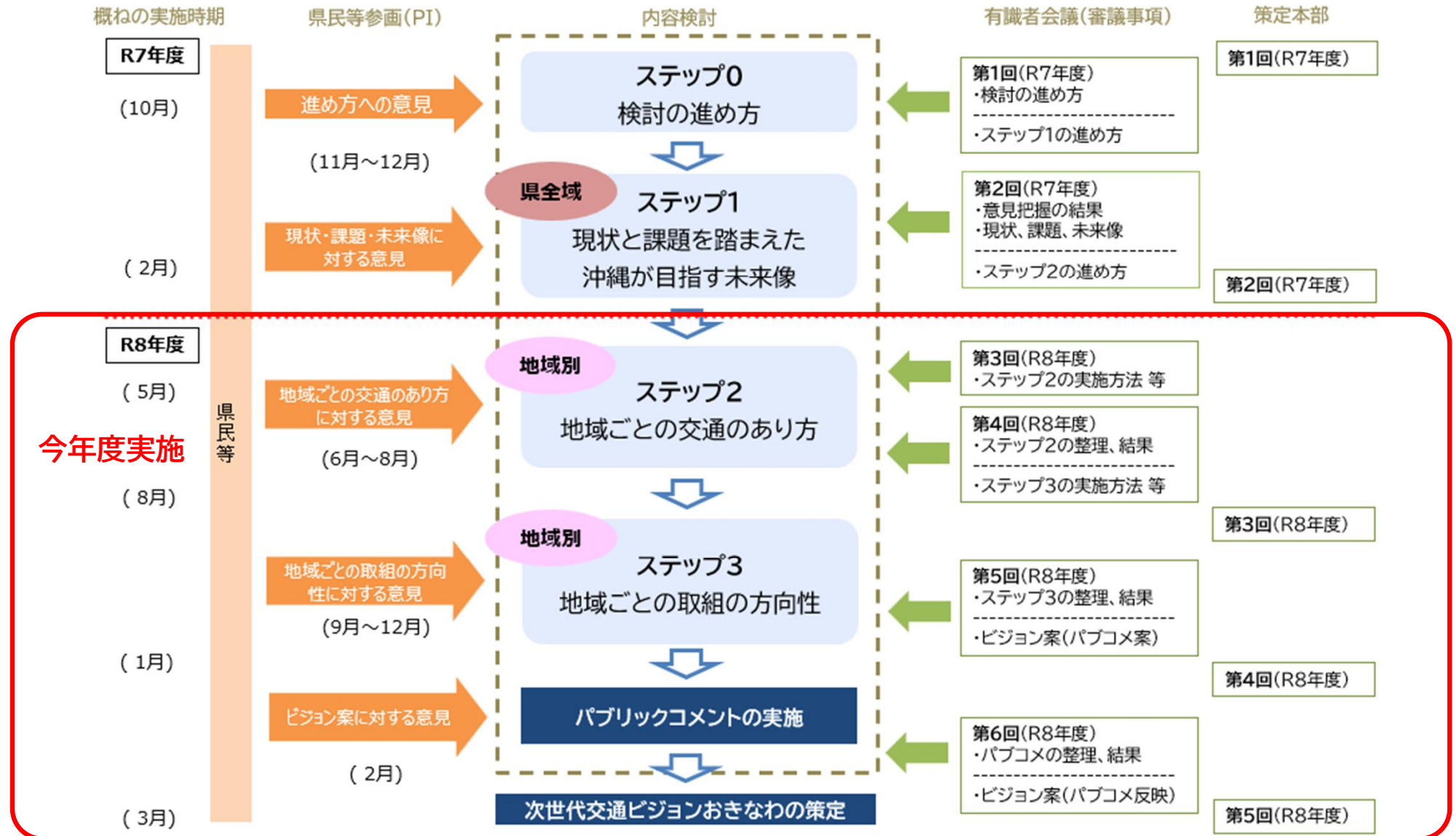
～ステップ2の実施方法等～

1. ビジョン策定の検討プロセス
2. ステップ1における検討成果
「沖縄が目指す未来像(案)」
3. ステップ2以降の進め方
4. ステップ2の進め方
5. ステップ2.3における県民参画（PI）の内容及び実施方法
6. 他事業で聴取した県民意見の活用
(参考) ビジョンおきなわの構成案

令和8年5月27日
沖縄県 交通戦略推進課

1. ビジョン策定の検討プロセス

- 昨年度は、ステップ0・1として、ビジョンの「検討の進め方」、「沖縄が目指す未来像(案)」の検討を行った。
- 今年度は、昨年度に整理した「沖縄が目指す未来像」を踏まえ、地域ごとの特性に応じた「交通のあり方」及び「取組の方向性」の検討を進める。



2. ステップ1における検討成果「沖縄が目指す未来像(案)」

- ・昨年度に実施したステップ1では、沖縄21世紀ビジョンの将来像や、オープンハウス等を通じて収集した県民意見を踏まえ、「移動」を切り口として将来の姿を具体化し、沖縄が目指す5つの未来像を整理した。

沖縄21世紀ビジョン 5つの将来像

- 将来像Ⅰ 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
- 将来像Ⅱ 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
- 将来像Ⅲ 希望と活力にあふれる豊かな島
- 将来像Ⅳ 世界に開かれた交流と共生の島
- 将来像Ⅴ 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

未来像に関する県民意見

活動機会の確保に関する意見

- ・通院や通学などの移動
- ・買い物など生活に不可欠な移動

自己実現に関する意見

- ・学びや余暇・娯楽
- ・多様性のある社会

地域の活力に関する意見

- ・新たな文化
- ・経済振興や格差是正
- ・地域の自立性
- ・観光の発展と共存

安全・安心に関する意見

- ・日常生活での移動
- ・まちの安全
- ・県民の健康
- ・地域コミュニティ

社会の持続性に関する意見

- ・多様性のある社会
- ・歴史文化の尊重
- ・自然環境の維持
- ・地球環境の維持

ありたい将来の姿を、移動によって実現する社会を切り口に整理

活動機会の確保

(1)誰もが、場所や状況に関わらず、生活に必要な活動へ無理なくアクセスできる

多様な主体が、住む場所や置かれた状況にかかわらず、通院や通学、買い物など生活に不可欠な活動を確実にける状況が求められている

自己実現

(2)多様な活動にアクセスできることで、自分らしさや挑戦を広げられる

学びや余暇、交流などの多様な活動にアクセスできることで、自分らしく生きがいを持ち、心豊かに暮らせることが求められている

地域の活力創出

(3)人や地域が繋がることで、地域の力や魅力が発揮される活力を生み出せる

人の往来や交流を通じて、地域の個性や資源が活かされ、経済や観光、歴史・文化の発展や地域の自立が促され、地域の活力がみなぎる状態が求められている

暮らしの質

(4)質の高い移動が実現することで、安心安全な日常のもと、健やかさや交流を育める

事故や不安がない移動環境のもと、安全・安心に日常を営むことができ、健康や自然とのふれあい、地域の繋がりがコミュニティが育まれることが求められている

社会の持続

(5)将来にわたって移動が支えられ、暮らしや活動を次世代へ繋ぐ地域を築ける

将来世代にわたり、暮らしや営みが無理なく受け継がれ、地域の力として積み重なる持続可能な地域が求められている

2. ステップ1における検討成果 「沖縄が目指す未来像(案)」

沖縄の目指す未来像(案)

	(1)誰もが、場所や状況に関わらず、生活に必要な活動へ無理なくアクセスできる	(2)多様な活動にアクセスできることで、自分らしさや挑戦を広げられる	(3)人や地域が繋がることで、地域の力や魅力が発揮される活力を生み出せる	(4)質の高い移動が実現することで、安心安全な日常のもと、健やかさや交流を育める	(5)将来にわたって移動が支えられ、暮らしや活動を次世代へ繋ぐ地域を築ける
1) 移動時間の確実性の確保					
2) 生活や活動の場へのつながりの確保					
3) 安全・安心な移動環境の確保					
4) 移動に伴う経済的・時間的負担の軽減					
5) 状況に応じて選べる移動手段の確保					
6) 人やモノが動く上での経済性の向上					
7) 交通サービスの使いやすさ・分かりやすさの向上					
8) 交通システムや地域の持続性の確保					

・5つの未来像の実現に向け、県民意見や既存データ等をもとに、現在の交通システムが抱える課題を整理

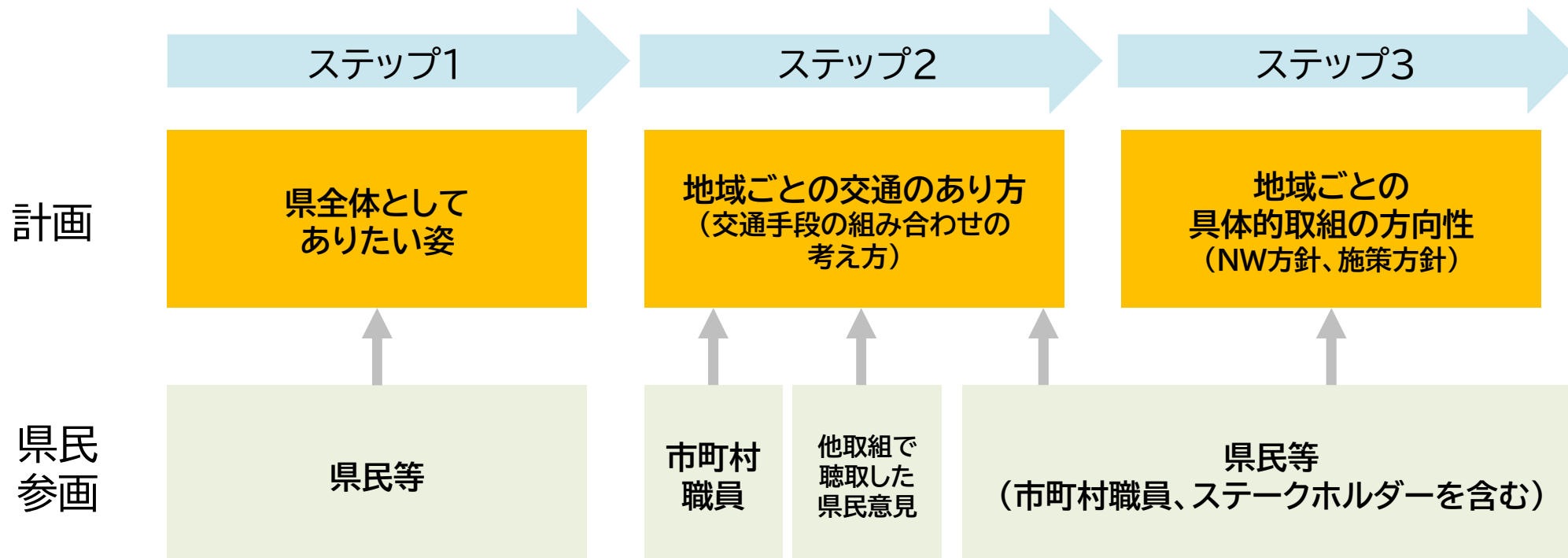
・8つの課題項目として整理するとともに、それぞれの未来像との対応関係を整理した施策を検討

未来像の実現に向けた交通システムの課題

3. ステップ2以降の進め方の方針

- 昨年度実施したステップ1では、県全体としての「沖縄が目指す未来像」を整理するため、広く多くの方々に接する機会が設けられるオープンハウス等を通じた県民参画を実施した。
- 今年度実施するステップ2以降では、県全体で整理した未来像をもとに、人口や地域特性の違いに応じて、地域単位で交通のあり方や取組の方向性を検討する。
- また、ステップ2では、沖縄中南部都市圏パーソントリップ調査のデータ等も有効活用し、効率的に進める観点から、ステップ2の前半は市町村職員や他取組で聴取した県民意見を活用し、ステップ2後半からステップ3にかけて県民参画を充実させる。

ビジョン検討と県民参画の関係性



4. ステップ2の進め方

概要

- ステップ2では、沖縄県を地域特性に応じていくつかの地域に分割し、地域ごとの移動特性や交通課題を整理する。
- また、交通のあり方に関する比較・評価を行い、その結果を踏まえながら、地域ごとの課題や特性に応じた交通のあり方を整理する。

①検討地域の区分

- 沖縄県は、人口、都市構造、観光、交流などの地域特性によって、移動の特徴や交通課題が地域ごとに異なることから、主に地理的特性、公共交通の状況、人口分布等を踏まえて検討地域を区分する。

②地域ごとの課題の抽出

- 地域ごとに、未来像の実現に向けて重点的に取り組むべき課題について、沖縄中南部都市圏パーソントリップ調査の結果や既存の交通関連計画等を踏まえて整理する。

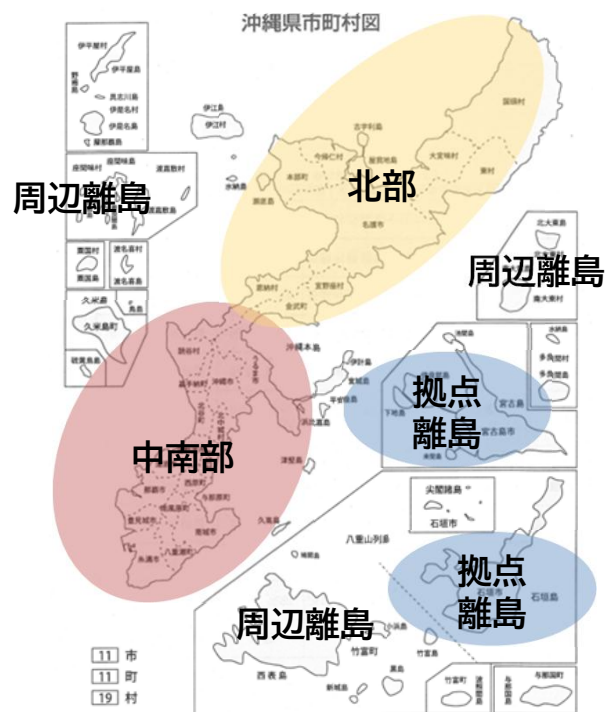
③地域ごとの交通のあり方

- 地域ごとの課題を踏まえ、「沖縄が目指す未来像」の実現に向けた地域ごとの交通のあり方を整理する。
- ステップ3では、ここで整理した交通のあり方を踏まえ、具体的な施策・取組の方向性を検討する。

4. ステップ2の進め方

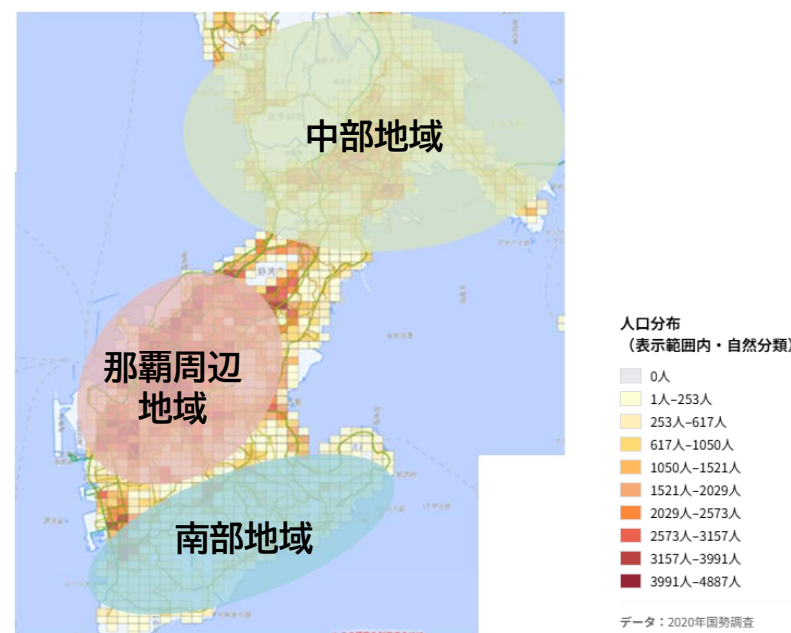
①ー1 検討地域の区分

- 沖縄県は、地理的特性や人口分布、公共交通の整備状況等により、地域ごとに移動特性や交通課題が異なるため、地域特性を踏まえた交通のあり方の検討が必要である。
- 本ビジョンでは、県全体を北部・中南部・離島に区分して検討しており、中南部については、人口集積や那覇との関係性、地域内拠点の有無等を踏まえ、さらに3圏域に区分する。
- また、離島地域については、交通インフラの整備状況や生活サービスの集積状況等を踏まえ、宮古・八重山などの「拠点離島」と「周辺離島」に区分する。



検討地域の区分

資料：沖縄県「沖縄県市町村図」をもとに作成



中南部都市圏の検討地域区分

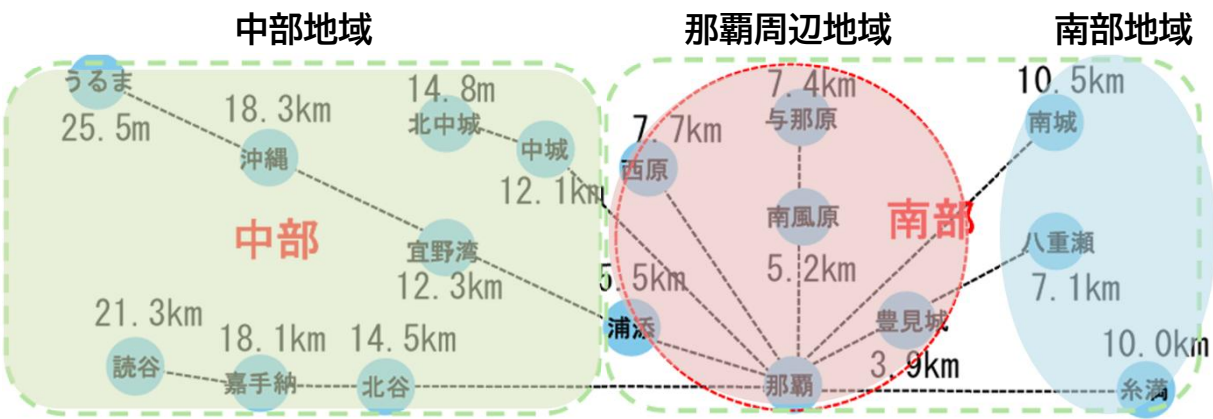
※人口密度や鉄軌道・バスの運行状況を加味して区分

資料：国土交通省「現状可視化ツール」をもとに作成

4. ステップ2の進め方

①-2 中南部圏域の区分の考え方

- 中南部地域は一体的な都市圏を形成しているが、那覇との距離、人口規模・密度、地域内拠点の有無などにより、地域ごとに交通課題の性格が異なるため3区分に分類した。
- 那覇周辺地域は那覇に近接し、人口規模・密度が大きい6市町村で構成される。路面電車や新交通が導入されている広島市中心部とも比較しやすく、渋滞等を含む都市型の交通の検討対象として区分する。
- 南部地域は那覇へのアクセスが考えられる一方、那覇周辺地域に比べて人口規模が小さく、距離もある3市町村で構成される。都市型交通に加え、交通空白解消等の観点が必要な地域として区分する。
- 中部地域は那覇から連続する市街地を形成し、宜野湾市・沖縄市・うるま市など地域核を有する8市町村で構成される。都市型交通に加え、交通空白解消等の観点が必要な地域として区分する。



那覇市(県庁・市役所周辺)から各市町村(市役所・役場)への直線距離

中南部都市の概要

都道府県	市町村	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
沖縄県(沖縄本島)	中南部17市町村	1,220,507	483.49	2,524
	中部8市町村	492,737	247.92	1,987
	読谷村	41,656	35.28	1,181
	嘉手納町	13,124	15.12	868
	うるま市	126,607	87.02	1,455
	沖縄市	141,933	49.72	2,855
	北谷町	28,380	13.91	2,040
	宜野湾市	100,032	19.80	5,052
	北中城村	18,185	11.54	1,576
	中城村	22,820	15.53	1,469
	那覇周辺6市町村	588,885	112.07	5,255
	浦添市	115,666	19.44	5,950
	那覇市	312,433	41.46	7,536
	豊見城市	65,163	19.33	3,371
	南風原町	40,844	10.76	3,796
	与那原町	19,608	5.18	3,785
	西原町	35,171	15.90	2,212
	南部3市町村	138,885	123.50	1,125
	糸満市	61,257	46.60	1,315
	八重瀬町	32,020	26.96	1,188
	南城市	45,608	49.94	913

資料：沖縄県「沖縄経済ハンドブック2024年度版」

4. ステップ2の進め方

②地域ごとの課題の抽出

- 地域ごとの課題については、ステップ1で整理した「未来像の実現に向けた8つの課題」をもとに、沖縄中南部都市圏パーソントリップ調査の結果や既存の交通関連計画等を踏まえながら、地域ごとに重点的に取り組むべき課題を整理する。
- その際、市町村職員とのワークショップを通じて、地域の意見も踏まえながら、課題を整理する。

地域ごとの課題の抽出の進め方

未来像の実現に向けた 交通システムの課題

- ①移動時間の確実性の確保
- ②生活や活動の場へのつながりの確保
- ③安全・安心な移動環境の確保
- ④移動に伴う経済的・時間的負担の軽減
- ⑤状況に応じて選べる移動手段の確保
- ⑥人やモノが動く上での経済性の向上
- ⑦交通サービスの使いやすさ・
分かりやすさの向上
- ⑧交通システムや地域の持続性の確保

課題類型を
活用



地域ごとに
重点的に取り組むべき
課題を整理



課題の抽出 アウトプットイメージ

課題	北部	中部	那覇 周辺	南部
①	○	◎	◎	...
②	◎	△	...	...
③	...	...	...	...
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

具体的な課題
を提供



- 沖縄中南部都市圏
パーソントリップ調査
- 既存の交通関連計画

- 市町村ワーク
ショップ
- 既存取組意見

既存データ・取組

◎: 重点的に取り組むべき課題
○: 取り組むべき課題
△: 課題として該当しにくい

4. ステップ2の進め方

③地域ごとの交通のあり方

- 地域ごとの課題整理を踏まえ、「沖縄が目指す未来像」の実現に向けた地域別の交通のあり方を整理する。
- 交通のあり方の整理にあたっては、整理した地域の移動課題の解決に資する交通施策について、交通手段ごとの役割を整理しながら検討する。
- その結果を踏まえ、地域ごとの交通手段の望ましい組み合わせを「交通のあり方」として取りまとめる。
- ステップ3では、ここで整理した交通のあり方をもとに、具体的な施策・取組の方向性を検討する。

地域ごとの交通のあり方の検討ステップ

移動課題の抽出結果

課題	北部	中部	那覇 周辺	南部
①	○	◎	◎	...
②	◎	△	...	...
③	...	...	...	...
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

交通手段別に
課題解決に資する
あり方を整理



交通手段の使い分けの検討

交通手段	考え方
鉄軌道	多くの人の移動を支え...
路線バス	...
オンデマンド 交通	
自転車	
徒歩	
パーソナル モビリティ	
自動車	
タクシー	
自動運転車	
他	



地域ごとの交通のあり方 アウトプットイメージ

■中南部圏域の交通のあり方(例)

- 中部地域(8市町村)については、基地返還後の都市構造を見据え、幹線道路の整備、北部と那覇・南部を繋ぐ本島縦断の鉄軌道の中間地点としての交通結節点の機能を活かした交通体系を形成する必要がある。
- 那覇周辺地域(6市町村)については、
.....
.....。
- 南部(3市町村)については、
.....
.....。

◎: 重点的に取り組むべき課題
○: 取り組むべき課題
△: 課題として該当しにくい

5. ステップ2・3における県民参画（PI）の内容及び実施方法

- ・ステップ3に重点をおくため、パーソントリップ調査のデータ等も活用し、ステップ2は効率よく実施する。
- ・ステップ2では、県民ワークショップに先がけ、市町村職員ワークショップ(WS)を実施する。

ステップ2(地域ごとの交通のあり方)

ステップ3(地域ごとの取組の方向性)

市町村職員を対象としたWS

6月上旬開催

県民を対象としたWS

7月下旬開催

県民を対象としたWS

9月以降開催

オープンハウス(OH)

WEB
意見聴取

【主旨】
現状と課題の整理
(パーソントリップ調査のデータ等)

- 【確認(質問)する内容】
- 未来像に対する補足意見
 - 地域ごとの特性、移動の特徴、課題に対する意見等

【主旨】
「現状と課題」について、漏れが無い
かの確認、深掘りの議論

- 【確認(質問)する内容】
- 「地域ごとの交通のあり方」に対する意見
 - 自動車と公共交通の機能、役割分担等

【主旨】
「地域ごとの交通のあり方」の実現に向け、実施すべき
施策や方向性について、県民の意見を把握し、整理

- 【確認(質問)する内容】
- 「地域ごとの交通のあり方」を踏まえた各地域間を結ぶネットワーク概略図(幹・枝に相当)
 - 交通渋滞を解消するための定時性・速達性を備えた交通モードの比較、公共交通空白地域の解消方法等

ステップ2の県民参画(PI)

市町村職員を対象としたWS(交通担当部署のほか、企画・財政・教育・福祉・観光等交通に関連する部署の職員を含む)

県民(市町村職員、ステークホルダー等含む)を対象としたWS(市町村職員、交通問題に関心のある団体、ステークホルダー等には個別に声掛け)

実施方法(案)

異なる地域特性を持つエリア(北部・中部・那覇周辺・南部)ごとに開催
離島地域はヒアリング対応予定

異なる地域特性を持つエリア(北部・中部・那覇周辺・南部)ごとに開催
各エリア、市町村職員等を除き、5名～10名程度募集(WS参加者は、所在地、勤務場所、年齢など、重複しないよう事務局において選定することとしたい)

ステップ3の県民参画(PI)

県民を対象としたWS(ステップ2のWSの参加者と同じ)

オープンハウス(OH)

WEBアンケートを通じた意見聴取

実施方法(案)

ステップ2と同じ

交通結節点など複数エリアの県民が集う場所で開催(2か所×2日間)

WS、OHを踏まえ作成した施策案等について、WEBアンケートを実施し、広く県民から意見聴取し、当該意見を踏まえ、ビジョン案を策定

6. 他事業で実施したPIの活用方法

- 他事業で実施しているPI(県民参加型WS)においても、地域ごとの交通の現況、交通のあり方、施策案につながるアイデア等の意見をいただいております、**WS資料作成時に反映する**
- 特に**高齢者、学生、観光客など特定のステークホルダーに対し、重点的に意見聴取を行っていること**から、本検討で実施するコミュニケーションの補完材料として活用する。

県民参加型PIで整理した課題・課題解決の方向性

児童・生徒・学生

- ① 行動変容の全地域での継続的な取組
- ② 学校周辺における道路状況の確認と必要な対策の推進
- ③ 複雑で多方面にまたがった確認や取組等
- ④ 送迎に依存しない通学のための交通環境の構築

高齢者・移動困難者

- ① 車に依存せず、元気に過ごすための移動手段等、安全・安心な環境確保
- ② 妊産婦や困窮者の暮らしを支えるまちづくり(移動コスト、目的地集約)
- ③ 移動しやすいバリアフリー化
- ④ 日常から県民全員が健康増進を

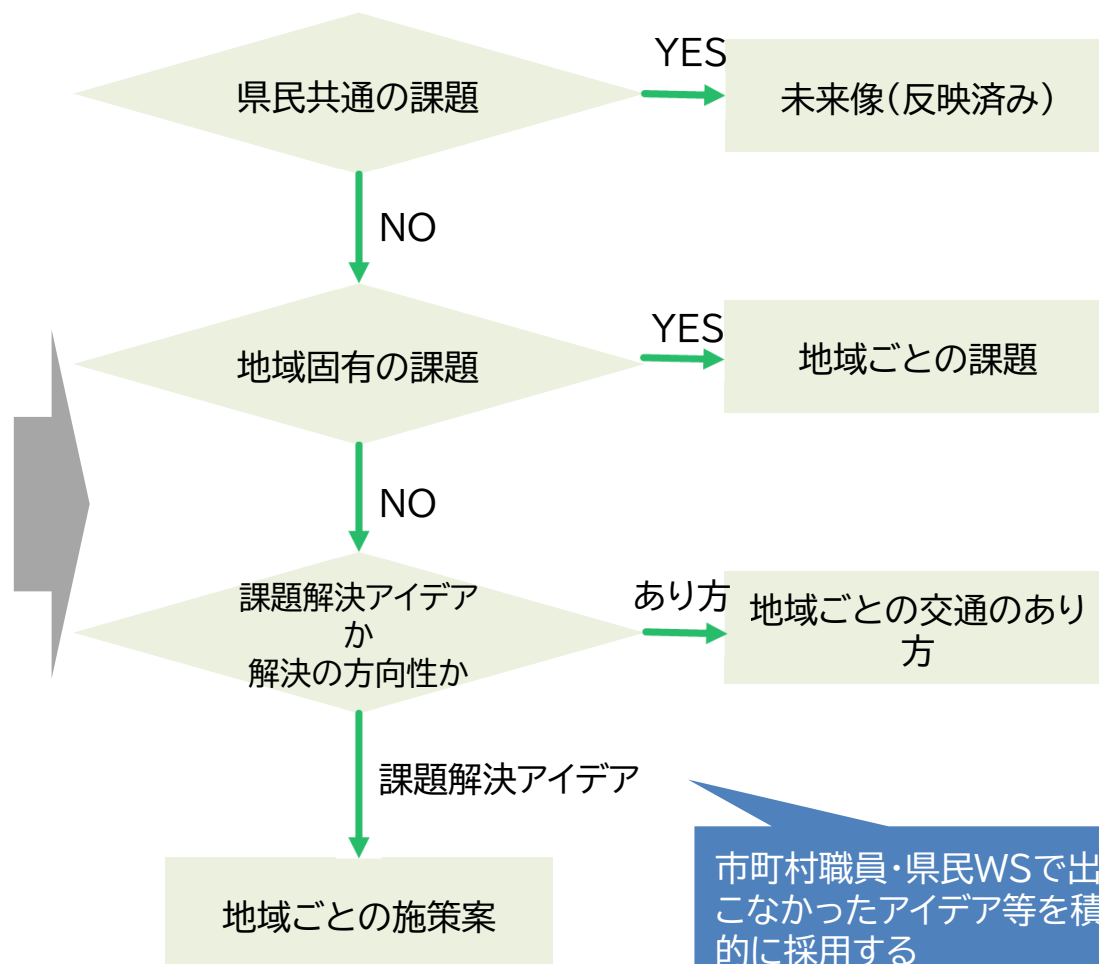
就業者・子育て世代

- ① 就業者の柔軟な勤務体制の拡大に向けた取組
- ② 就業者の通勤コスト低減に向けた取組
- ③ 通勤時の移動時間に関する確実性向上
- ④ 子育て世代の移動に対する負担と不安の軽減
- ⑤ 職住近接、日常生活機能の集約等、暮らしやすいまちづくり

観光客

- ① レンタカーの利用、移動をスムーズに
- ② バスやモノレールで観光を移動しやすく
- ③ 乗りたくなる公共交通、情報案内、日よけ施設、休憩施設の整備・充実
- ④ 歩いて文化や景色等と触れ合える環境整備を通した沖縄観光の活性化

意見分類フロー



第1章 はじめに

- (1)次世代交通ビジョンとは
- (2)ビジョンの基本方針、ビジョンの位置づけ

第2章 県民意見を集約した「交通の未来像」

- (1)ビジョン策定に係る県民参画(PI)のプロセス
- (2)県民が望む「交通の未来像」

第3章 各地域の望ましい交通のあり方・取組の方向性

～交通渋滞と交通空白解消に向けて～

- (1)各地域の望ましい交通のあり方
 - 1)北部地域 2)中部地域 3)那覇周辺地域 4)南部地域 5)拠点離島 6)周辺離島
- (2)中南部都市圏の交通渋滞の解消に向けた取組
- (3)公共交通空白地域の解消に向けた取組
- (4)県民意見を集約した交通ネットワーク概略図(本島・離島)

第4章 ビジョンの実現に向けた推進体制

参考

県民参画(PI)による意見等の抜粋、アンケート等の結果